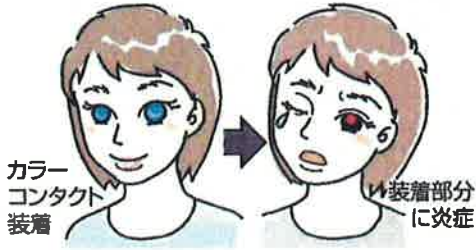


カラーコンタクトご用心

若者に人気のカラーコンタクトレンズについて、国の承認を受けたものにも品質に問題のある製品が含まれる可能性があるとして、眼科医でつくる日本コンタクトレンズ学会は、国民生活センターと共同調査に乗り出す。レンズの着色部分が露出し角膜を傷つけるおそれがあるなどの指摘があり、実態を解明する。結果を踏まえ、厚生労働省は対策を検討する方針だ。

カラーコンタクトによる障害の事例



カラーコンタクトレンズ、度なしの場合は雑貨品扱いだったが、2009年11月、すべて薬事法の規制対象となり、高度管理医療機器として国の承認や都道府県の販売許可が必要になった。厚生労働省によると、10年以降に承認されたのは今年6月時点で245品目。健康被害の増加を受け、厚生労働省は同月、適正使用を呼びかける通知を出した。

カラーコンタクトは10代後半〜20代女性のおしゃれ用品として人気が高いが、普及とともに健康被害も目立っている。同学会の調査では、2012年7月から3か月間に395人の患者を確認。多くが眼科を受診せず、ネット通販や量販店で買って使い始め、長時間

学会など品質調査へ



カラーコンタクトレンズを装着した瞳。青白いドーナツ状の着色部分の下に、炎症が起きるケースが見られる（日本コンタクトレンズ学会の宇津見 誠一さん提供）

着色露出 角膜に傷も

付け続けたりケアが不十分だったり、使い方に問題があった。

同時に、品質の問題も指摘されている。同学会によると、承認品なら着色部分はレンズ内部に封入されるはずだが、着色部分を覆う膜がはがれやすいものがあるという。承認審査は書面で確認するだけで、こうした製品も通ってしまうとみられている。視力補正用の透明レンズでは使われていない酸素透過性の低い旧式の素材や、直径が大きすぎて酸素不足になりやすいものもある。ネット通販や量販店で売られている商品は、大手メーカーのレンズだけでなく、韓国や台湾などの輸入品も多い。

調査では、着色部分の露出や酸素透過性など品質の問題や、使用時に角膜に変化や障害はないかを調べ、使用実態調査も行う予定。同学会の糸井素純・常任理事は「多くの眼科医が、品質に問題のあるカラーコンタクトがあるのではないかと経験的に感じている。調査研究により事実関係を確認し、安全性の問題がわかれば、承認条件の見直しなどを提言したい」としている。